

## エジプトとの連携強化に向けて

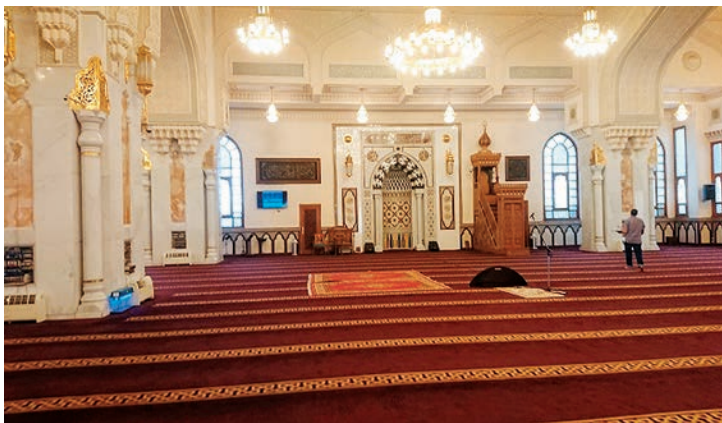
特別会員 宮崎 康次



あつた2019年の10月に相川英一氏（機45）と上司であった塚本寛先生（機械工学科・特別会員）からアフリカとの連携が手薄ではないか、アフリカの雄エジプトとの連携を模索しないのか。とアドバイスを頂いたのが活動のきっかけとなりました。

九州工大はグローバルコンピテンシーを合言葉として教育の国際化に力を入れて久しく、明専会からの資金援助も頂き、多くの交流協定校と学生教育に取り組んでいます（<https://www.kyutech.ac.jp/exchange/exchange-partner-universities.html>）。2020年には、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する大学機関別選択評価において、「教育の国際化が卓越している」との最も高い評価を受けたことも記憶に新しいかと思えます（<https://www.kyutech.ac.jp/whats-new/topics/entry-7371.html#prettyPhoto>）。

その教育国際化活動の真っ只中に



エルアラビ社長が自費で建設したモスク内部

今思い返しても、繋がり薄いエジプトと連携できるチャンスを得たのは幸運だったと思います。ところがなかなか幸運が続くわけでもありませんでした。先方にも都合がありますから、双方の確保できた日程は3カ月後、2020年1月18日となりました。航空券の手配も完了し、フランスのロレーヌ大学に続き、次はエジプトとの連携を開拓できると期待している矢先でした。2020年1月8日にイランがイラク内にある米軍基地にミサイル攻撃をしかける事件が起きました。その程度でエジプトを訪問できない弱虫と思われるたくありませんでしたが、日本政府がイスラム地域を危険との枠組みに変更してしまったため、購入した航空券もキャンセルして公人として出張を取りやめざる得なくなりました。数カ月もすれば状況は好転すると楽天的に判断していましたが、その直後から、コロナ禍に突入する不運が続きました。チャンスはチャンス、自己責任で訪問するのが正しかったと後に反省できたことは私個人にとっては良い経験となりました。

2022年8月、コロナ禍も終息

に向かい、いよいよ教員も海外出張という時期が訪れます。2年前だと記憶もおぼろげかもしれませんが、機内でマスクをしていれば良い、予防接種をした上で、海外でコロナPCR検査して陰性であれば帰国して良いことになりました。幸運にも再度、エジプト側から連絡があり、訪問のチャンスを得ました。相川氏の仲介が完璧なことから、エルアラビ社とE-JUST大学を訪問できることになりました。ベンハーにあるエルアラビ社を訪問して、研究所、教育施設（日本の高専レベルと思われる）、関連施設を見学して、首脳陣と意見交換する貴重な機会まで頂きました。これから発展する国、企業の意気込みを感じるとともに、エルアラビ社長の社会貢献を第一とする人柄に感銘を受けました。エジプト市民が無料で治療を受けられる病院、誰もが祈りを捧げることができるモスクなどをすべて自費で建設するなど、本学学生も必ずや良い教育を受けられる環境と確信しました。にも関わらずエルアラビ社は謙虚な姿勢を貫き、JICAの支援を受けながら社内に建設した高等教育施設で



Eltawil 工学部長の説明を受ける筆者

日本人教員を受け入れ、日本式の教育を実施することに誇りを感じておられました。数多くの気づきがあったとのことですが、特に生徒自らが教室を清掃する日本の文化に衝撃を受けたそうです。相互の文化に刺激を受けながら発展できる良好な国際関係が築けると感じた瞬間でした。次にはカイロから離れたアレキサンドリアに建設されたEJUST（エジプト日本科学技術大学）を訪問しました。本学情報工学部で教鞭をとられた浅野種正先生が先方に滞在されており、久しぶりにお会いするとともにJICA職員も加わってエジプトが科学技術の高等教育に注力している現状を伺うことができました。観光のような不安定な収入でなく、科学技術で国を富ませることをエジプトは考えているとのこと、今の日本が正反対にあることは我々もよく



E-JUST 本館前での記念撮影

認識しておくべきと感じました。砂漠の真ん中に巨大なクリンルームを建築していることでもその強い意志を感じます。さて、EJUSTはJICAの支援の下、旧帝大と東京工大が完全バックアップという先入観もありましたので、大学間協定は無いと思っていましたが、エルアラビ社からの推薦もあったのか大歓迎で訪問を受け入れてくださいました。たった一教授の訪問に対して、工学部長含め全学科の長が集まり意見交換までして下さいました。本館前で

の記念撮影を見ても、先方の意気込みを感じることができると思いますが、話がそれますが、見学中双眼鏡のような見慣れた形状の建物（北九州美術館と似た）があり、もしかやと思ったのですが、やはり磯崎新氏設計の建屋でした。何か北九州とEJUSTの運命を感じたりもしました。具体的な研究分野としては宇宙天気や物理化学、情報科学に興味を持っているようで、連携可能性は高いと感じて帰国しました。

8月に訪問の2週間後、JICAアドバイザーの松下慶寿氏から連絡が入り、基礎応用理学（応用物理に相当か）のMokhtar学部長が本学を訪問してくださいました。連携先である九大と京大を訪問する多忙なスケジュールの間に無理やり調整してくださいったようで、本学での滞在は数時間でしたが、三谷学長を訪問してくださいった後、神谷副学長含む国際連携室メンバーとも意見交換してくださいました。戸畑キャンパスの応用化学科と先端基幹研究センターである革新的宇宙利用実証ラボラトリーを見学され、連携実現に強い興味を持ってくださいました。



相川英一氏、Ibrahim El-Araby氏、Abdelrahman El-Araby氏

とは言えど、2022年10月以降、エジプトとの連携に進展が見えないまま1年半が過ぎて少し気がかかってきたところ、本年2月にエルアラビ東洋一エンジニアリング社の立場として、相川氏がエルアラビ社開発技術の幹部お二人と本学を訪問してくださいました。国際連携室で国際インターシップの可能性について意見交換があり学生のエジプト滞在のチャンスを準備してくださいただけでなく、国際共同研究を期待できる雰囲気です。多くの教員にも本件興味を持っていただき、大きなチャンスを逃さぬよう、エジプトとの連携を強固にしてくださいることを願っております。